

令和5年度 小平市立 小平第六小学校 学校評価報告書

学校教育目標		①元気でしようぶな子 ③仲よくできる子		②よく考えてやりぬく子<重点目標> ④進んで働く子				
目指す学校像(ビジョン)								
【目指す学校像】		できる喜び、わかる楽しさを味わい、みんなの笑顔が輝く学校						
【目指す児童・生徒像】		自分の思いや願いをもち、表現できる子供						
【目指す教員像】		明るく愛情にあふれ、学び続ける教師						
前年度までの学校経営上の成果と課題								
[成果]児童が自ら課題解決に向けて学習する力、自らの考えを友達と表現し合うことで考えを深める力が高まった。								
[課題]感染症対策を継続し、体力づくりに向けた校内の取り組み環境を整える。校内研究を通じ、一層の児童の表現力の向上を目指し、学びに向かう姿勢と自主学習の定着を確かなものにしていく。								
	具体的方策	第1回評価		第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降	
		取組指標	成果指標	取組指標	成果指標			
学力向上	児童の学習意欲を高めるために指導過程を工夫し、共に学ぶ楽しさを実感できるように小集団での学び合いの指導改善に努める。国語、道徳、体育を主とした問題解決型の学習の中で、児童の主体性や思考力・判断力・表現力の向上を図る。	4	4	4	4	・学校公開等で授業参観すると、子ども同士が小さなグループの中で考えを発表し合い、刺激し合っている様子が伺えた。様々な教科の学習でこのような様子が伺えた。 ・学習者用端末を授業中や家庭学習で頻繁に活用している。子供たちも嬉しそうに活用している。	研究を通して、各教科の学習過程が明らかになり、児童ができるようになった。そのことが授業に主体的に取り組むの学び合いの場面では、学ぶことで考えと答えがつかない後もよりよい児童同士の学び合いにつながる話し合いのしていくことが望まれる。	
	発達段階に応じ、反復学習の場面、調べ学習の場面、表現の場面、交流の場面等、活用の場を意識した指導を工夫する。段階的に児童の情報機器の活用能力の基礎を培い、学習の理解を深めている。	4	4	4	4	・学年の実態に応じ、機器活用を指導してきたことで、そのいてきた様子がうかがえる。総合的な学習の時間の調べ学習に使用した表現力など、児童自身が意欲的に取り組んで、各教科の身に付けさせたい力に基づくICT機器の活用。	学年の実態に応じ、機器活用を指導してきたことで、そのいてきた様子がうかがえる。総合的な学習の時間の調べ学習に使用した表現力など、児童自身が意欲的に取り組んで、各教科の身に付けさせたい力に基づくICT機器の活用。	
体力向上	体育授業の指導の共有や業間体育の活用により、児童の多様な動きや体力の向上を図る。また、ボールや長縄、竹馬、鉄棒などの運動環境を整え、運動の日常化を図る。	4	4	4	4	・学校経営協議会としても、土曜日のイベントで「投げ方教室」を行った。地域の少年野球チームの協力を得て、参加児童や保護者にも大変好評であった。 ・小平市の少年少女マラソン大会前の1カ月程、「朝ラン」イベントも行った。体力向上だけでなく、生活リズム作りにもつながる。さらに学区内にある大学の陸上部の寮の学生の協力を得ることもできた。 ・学区内の企業との連携により「水泳教室」も開催できた。	校内研究授業で、児童が楽しんで活動できる場の検討、持久走カードを作成し、運動への取り組み意欲の向上を児童によって差が大きいため、今後も運動の日常化を図る。	
	ソトスロンや六小ギネス、ダンスロンや各種運動集会の内容を充実させ、児童に体を動かすことの心地よさを味わわせる。体操やなわ跳び、ダンスなどに児童自らが取り組む仕組みをつくり、家庭での運動の習慣化を図る。	4	4	4	4	・ダンスクラブで皆で体を動かす楽しさを味わわせる機会を設けた。加えて、持久走間隔の設定も、全員が外で元気に体を動かす意識を高めるとともに、運動の楽しさを知り、習慣化させるきっかけとなった。	委員会やクラブ活動で、運動の楽しさを伝える活動を生かして取り組むを行った。体力アップ週間などを設けて、体力向上後も通年で継続性のある取り組みを行い、運動の習慣化を図る。	
健全育成(いじめ防止)	一人一人の良いところを認め合う学習環境を作っていく。毎月のいじめ実態調査や年3回のふれあい月間を通じ、いじめの未然防止、早期発見・解決に努める。ふれあい月間に合わせて「いじめ」についての授業を実施する。	4	3	4	3	・「相手の気持ちを思いやることが大切である」ことが分かる校内の掲示物がある。 ・保護者会やメール配信などで家庭にもきちんと伝えている。	6月と11月に実施したふれあい月間で、各学級の実態把握を行った。各担任に指導の振り返りを促し、学級の実態を把握することができた。	
	児童には毎月の生活朝会や安全指導内容を工夫し、規範意識を高め、「自分はどう行動したらよいか」を自ら考えられるように指導していく。月2回程度の生活夕会を実施し、教員間の情報交換を行う。	4	4	4	4	・六小スタンダードについて、改めて整理し共通認識が得られるように確認した。児童への指導では、テレビ放送を生かして月目標を伝えたり、安全指導の中で、全校で指導が必要な事例を伝えることができた。	毎月一回の生活朝会では、校内生活に関わる、望ましい行動は、学年ごとに児童の情報共有する場を設けた。校内共通意識をもって児童の指導にあたることができた。	
特色ある活動	年3回の小・中連携の日を活用し、二中校区の重点項目について共通理解を図り取り組む。また、二中校区共通プログラム「あいさつ運動」に中学校と連携して取り組み児童に「地域でのあいさつ」を意識させる。	4	2	3	3	・小・中連携の日だけでなく、中学2年生の職場体験や6年生の体験入学、部活動見学など将来に希望がある活動を行うことができた。 ・コミュニティ・スクールとして協力的なメンバーがボランティア活動を定期的に行っている。	年3回の小中連携を通じて教職員の定期的な連携をとるが、進学を目前にした児童自身の、期待感や将来への目標を2月・3月に実施される中学校との体験交流を実施するサポートしていく。	
	学校経営協議会と連携して、学校をより良くするために毎月の学校経営協議会で共通理解を図り、取り組む。学習支援ボランティアやNPO法人・地域人材を活用し、指導の充実に努める。	4	4	4	4	・広く地域からの意見を取り入れるように心がけるとともに、児童の学習活動様子を公開できるように、定期的に公開を実施していく。地域の理解と協力を得られるように指導の改善を生かしていく。	PTAの活動をボランティア方式に改め、地域と家庭に広く、自校の優先したい課題やサポートへの支援体制が務めた。結果的に自校の教育への理解を促すことにつながりながら、自校の教育活動に様々な協力を得られた。	
	食に関する年間計画(学年別)に沿って進め、児童が本物と出合い様々な体験を通して、食の楽しさや大切さを感ずる食品や料理を少なくしようと努力したり、「食」を大切にしようとする態度を育てる。	4	4	4	4	・ボランティア活動で学校の給食を食べた時、温かくておいしくて安全で、大変感動した。 ・外部企業や地域の農家とも連携し、各学年に合わせた食の授業を積極的に進めていると思う。 ・ひまわり教室を利用している子供の保護者としては、このような授業によって他の児童や保護者にも理解していただけることが大変ありがたい。	給食指導を定期的に実施した。児童が食に対して興味は、給食室と常に連携をとり、食育に関わる各学年の学食充実した食育の学びの環境を整えた。今後も、食への意欲を高めるように、家庭や地域への協力を仰いでいく。	
	学校公開に合わせて理解教育の授業を行い、保護者への障害理解を図る。年2回の特別支援教育研修と定期的なOJTを行うことで、特別支援教育の指導法や障害理解の共有に努める。	4	4	4	4	・今年度は、各学年で通級級級担当教員が、各学年に一回ずつ理解教育を実施した。児童の視点を拡充し、他者理解につなげることを意識した取り組みを記入してください。	学校公開や校内研究授業で、全学年に障害理解教育を視点と養うことができた。今後は、児童が身に付けた視点を活かせるような取り組みを校内全体で見守っていくことが必要	
業	校内の連絡事項はメールを活用し、会議時間を短縮する。学年で教材研究を行い、資料を共有し活用していく。また、HPやメール配信を活用し、情報共有を図る。また、HPやメール配信を活用し、情報共有を図る。また、HPやメール配信を活用し、情報共有を図る。					・学習者用端末を活用し校内での会議の資料を共有したり、お便りに代わる情報発信を学校HPやメール配信を行ったり、積極的なICT活用	・学校公開や、保健だより、こんだて表、コミュニティだよりがデジタル配信となった。	学習者用端末を活用した、情報活用と資料の共有を進めた。さらに、職員間の教材の共有を進めていくことで、学

改善	<p>待機時間や準備時間削減等が、勤務時間の確保に有効に活用された。また、児童と向き合う時間において、教育活動の充実を図る。</p>	4	4	<p>用を試みた。業務の効率化と時間の確保を目指した。</p>	4	4	<p>また、教職員が振り込みとなった。これからも先立りの業務の効率化が図れると良い。</p>	<p>へ。</p>
----	--	---	---	---------------------------------	---	---	--	-----------

